

	課題分析	授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章題で正しく立式できない児童がいる。</li> <li>繰り上がりのたし算や繰り下がりのひき算の計算ができない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章題のキーワードに線を引かせたり、ブロックや具体物を用いたり図に描かせたりして、問題場面を適切に理解できるようにする。</li> <li>授業の始めに5や10の分解や合成を繰り返し習熟したり、計算カードを繰り返し練習したりして、定着を図る。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章題から正しく立式できない児童がいる。</li> <li>2桁同士の繰り上がり、繰り下がりのたし算やひき算の定着がまだ不十分な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章題からキーワードに線を引かせたり、半具体物を用いたりテープ図に描かせたりすることで、問題場面を正しく理解し、演算決定ができるようにする。</li> <li>2桁同士のたし算とひき算の問題を繰り返し取り組ませ、定着を図る。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章題を読み、問題場面を想像し、正しく立式できない児童がいる。</li> <li>九九の定着がまだ不十分な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題場面からテープ図や線分図を使って、適切に数量関係を理解できるようにする。</li> <li>かけ算やわり算の単元では、授業の始めに九九を繰り返し復習し、九九の定着を図る。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章題を読み、問題場面から正しく立式できない児童がいる。</li> <li>基礎基本である四則計算に課題がある。加減計算や九九の定着が不十分な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題場面からテープ図や線分図を使って、適切に数量関係を理解できるようにする。</li> <li>計算領域のかけ算やわり算の単元では、授業の始めに加減計算や九九を繰り返し復習し、定着を図る。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>小数の乗除や倍の計算など文章題から正しく立式できない児童が多い。</li> <li>知識・技能の個人差が大きく、四則演算の定着ができていない児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題場面から分かっている数を数直線図に表して、適切に数量関係を理解し、立式できるようにする。</li> <li>習熟コースに合わせて、課題の内容などを工夫して授業を展開する。授業の始めに計算の反復学習を行う。</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位量を活用した文章題から正しく立式できない児童が多い。</li> <li>知識・技能の個人差が大きく、四則演算の定着ができていない児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題場面から数直線図を用いて、小数や分数などの大小関係に注意しながら適切に数量関係を理解し、立式できるようにする。</li> <li>レディネステストでの見取りを丁寧に行い、習熟度別の学習の中で基礎基本の計算を計画的に行う。</li> </ul>